

創学舎ニユース

No. 265

チキンハートの

愛しき生徒達(その3)

二〇〇七年も終わろうとしている。受験勉強を始めた頃は、まだたっぷりあると思っていた時間も、あと残りわずか。そして、残された時間は、今までの倍以上の速さで過ぎていく。チキンハートの生徒には、苦しくてたまらない日々となるかもしれない。

ところで、10月号のニユースで触れたことを覚えているだろうか。チキンハートのきみ達の特性のことを、再言しよう。きみ達は、向上心が強い。理想が高い。敏感である。そして、この特性は、長所でもあり弱点でもあるのだ。そして、そして、今のきみ達は、未熟さゆえにこの特性を長所として活かせず、苦しんでいる。ただ苦しむのである。それを繰り返すのである。残念なことだとは思わないか。

なるほど、きみ達が苦しむのはチキンハートゆえである。しかし、それを繰り返すのは、チキンハートのせいではない。自分の心の弱点の克服について怠情だからである。何とかしようと思いつつも、何もしない。勿論、勉強そのものはやっているのだが、弱点の克服のためには、相変わらず何もしないのだ。これこそが最大の問題点といえよう。



実を言えば、私自身もチキンハート、それもかなりのものである。だから、きみ達のこととは、普通の人より理解できるし、こうして書く資格もあると思ってい

る。勿論、精神科医でも、心理学者でもないのだから私の分析やアドバイスの甘い点は多々あるとは思いつが、それを承知で、書かざるを得ないのである。このまま、きみ達を黙って見てはられないのである。さて、本題に戻そう。きみ達は、何とかしたいと思っているのではないか。もしそうなら、10月号と11月号で述べたことをもう一度確認してほしい。そして、実行可能なことをいくつかでもよいから実践してもらいたい。これまで、数千人の受験生を受けもって、彼等とやりとりをしながら、工夫をしてきた方法だし、ある程度の成果も得られた方法である。実践することで、一方の極に揺れていた心は、中ほどへと戻ってくるはずである。それではアドバイスの続きにしよう。

自分の願望を正しい言葉で思い出そう。

「落ち着こう。」「高得点を取ろう。」「ミスをしないうちにしよう。」「集中しよう。」「ときみ達は思うかもしれない。しかし、これは願望ではない。恐怖から逃げたいがために発する声に過ぎない。こんなことを思い浮かべていたら、心の中で恐怖と、その恐怖から逃げるための声が戦いを始めて、ろくなことになら

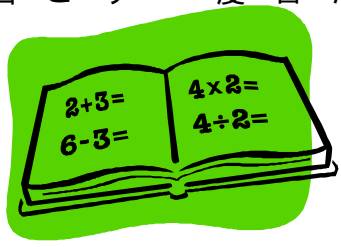
ない。頭の中が真っ白になるだけだ。では、本当の自分の願望とは何か。それは「合格したい。」「のひと言である。他に何もない。ところが、チキンハートの人はこれを強く思うと、また、自分を必要以上に追いつめ、頭の中が真っ白になってしまふ。そこで、考え方を少し変えて、「全力を出そう」「精一杯やろう」という言葉を用意するのである。」「合格」「精一杯やった後の結果であることを考えれば、合点がいくはずだ。」「全力を出そう」「精一杯やろう。」「と言いつ聞かせるのである。ながながと、書いてきたが、どれも忘れてしまつては何にもならない。訓練が必要である。覚え込んで、言い聞かせる訓練が必要である。勿論、授業でも、耳にタコができるほど言つてやるから、それを覚悟しておけ。さあ、残された日々、ともに頑張ろう。

(小林(健))

何度でも、何度でも！

毎年12月になると中学3年生のこの自分を思い出す。受験校もほぼ決まり、あとはがんばれば大丈夫と言われたときのことである。12月初めに行った模試の結果が返ってきた。そこにあつた結果は驚きのものであつた。英語の偏差値が12下がつていて、その影響で3教科の偏差値が6下がつていたのである。見た瞬間、これはやばいことにな

っている気がついた。今となって考えれば、なぜ下がっているかなど予想もつくだがそのときは本当に焦つた。しかも、そのときに英語を担当していたのは小学生から通つていた塾の塾長であつた。そして塾長に言われた一言は、ちゃんとやっているなら点数が上がるはずだけど……。自分では何をしたら得点上がるのかわからず、正直困つてた。そこで、中学2年のときに英語を担当していたいただいた先生(この先生のとてが一番偏差値が高かつた)に聞いてみた。その先生は「各単元をマスターしていることは数直線でいえばひとつの点。それらの知識の点を結んでいかなければ線にはならない。小林君は各単元ならよくできて、それらを散りばめた問題になるとできなくなるんだ。なぜなら今まで得た知識を積み重ねていないからだよ。ここからは、冬期講習のテキストを最低でも入試までに15回やること。」と言つた。それを聞いたときは、「そんなにできるわけないと思うが、やれるだけやってみる。」と返答し、そこから私の「何度でも。」が始まつた。



1回目、丁寧に一つずつ問題に取り組み、すこく時間がかつた。1回目が終わつたのは、冬期講習の前半終わりのときであつた。しかし、1回目をきつちりやることのできるとあとは早かつた。私立高校

の受験日までには8回、公立高校の入試までには28回繰り返し返すことができた。そのころには、ほとんど答えを覚えるくらいまでやりこんでいた。公立高校の入試においては英語で自己最高点を取ることができた。しかし、入試には不合格。結局、私立へ行くことになってしまった。普通なら公立高校の入試が終わると勉強をやめてしまつが、冬期講習のテキストだけは毎日見ていることや解くことが習慣になつていた。合格した私立高校のコース分けテストが3月21日に行われ、そこではしっかりと得点を取ることができた。

私のこれらの経験でわかったことは、1冊のテキストをしつかりとやりこむと決めて、それを実行できないと成績は上がらないということである。それまでの私は、勉強のできる友達がこのテキストがいいというときぐに購入し、少しやっつて成績が上がらないと言つていたタイプだった。そんなタイプの私が、たった1冊のテキストを28回も繰り返し解くことによって得たのは、ここまでやり込んだ達成感とこの粘りさえあれば受験は乗り越えられるという自分への自信である。

これから受験生諸君は、受験を間近に控え、精神的に追い詰められて不安に襲われる時期を迎える。このような不安の最適な解消法が、繰り返し何度でも同じテキストを解くことである。または信頼のおける講師にアドバイスを求めることもよいだろう。自分の中に

不安な気持ちを溜め込まないことだ。今は、繰り返し何度でもテキストを解くことで、自分の頭の中を整理し、過去問を解いていくしかない。一日一日、前へ前へ！ (小林英)

知るところは

最近「ポタリング」という言葉に出会った。自転車で気ままに散歩をする、という意味だ。楽しそうな雰囲気雑誌で見ているうちに、自転車それ自体がなかなか奥深い乗り物だということを知った。例えば、用途に合わせて種類が多様に分かれていて、いわゆるママチャリはスチール製なので重いがアルミ製のものは十キロくらいしかなく極めて軽量であること、変速ギアは日本のあるメーカーが世界的シェアを占めていること、安価なものは当然コストを削っているの信頼できるものは五万円以上はするということ、等々。それからというもの、道行く自転車を自然に眼で追うようになった。今まで自転車と言えば、ママチャリか競輪用くらいで十把ひとからげに考えていたものが、突然その間の層が大きく拡がり、しかも私の世界の中で価値を持ち始めた。無意味だったものが意味あるものへ転化した。知ることによって新しい世界が自分の中に



誕生したのである。

知ることにはこのような発見の喜びがある。反対に、知らないことによって大きな不利益をこつむることは多い。以前、中古で買った車を運転中に、急に異音とともにハンドルが利かなくなつて死ぬ思いをしたことがある。何とか街道沿いのスタンドへ入って点検してもらつと、クランクシャフトという部品が折れたためエンジンを交換しないと走れないという。後日、ディーラーからも実費で交換すると言われたが、その見積もりは車を買った金額とほとんど同じだったため茫然とするほかなかった。実は、私の車は某社のリコール(欠陥があるために修理が必要なもの)対象車で、しかも調べると欠陥箇所は例のクランクシャフトであった。ところが、私の車は某社のホームページ上での検索では修理が済んでいることになっていた。某社に直接問い合わせても同じであった。しかし、たまたま見た雑誌で通商産業省のホームページに各リコール車についての詳細が載っているという記事を見て、すぐに調べると(世の中便利になったものである)、リコール終了時にエンジンに目印のペイントをする決まりになっていることが明示されていた。だが、私の車にそれはなかったのである。結局それが決め手になったのか、某社と交渉した結果、すべて無償で修理するという回答を得た。先の情報を知らなかったら、私は黙つて十万単位の支払いをするところだった。

世の中で、無知であるということは、自分の足を引っ張ることになる。例えば、礼儀といった慣習を、若い頃は無意味だと軽視するが、集団や組織が円滑に機能するには不可欠なものであることを、社会の中では嫌というほど思い知らされる(その点で、先日某若手女優の不機嫌騒動は象徴的であった。気分が左右された一人の人間の行動が、いかに周りに不快感を与えるか。若い人たちにとつて、そのことを学ぶ最高の教材である)。

だから、耳の痛い助言をされても、教えてくれるだけありがたいと感謝するようにしている。知らぬは本人ばかりなり、という状況は不幸で残酷なことこの上ない。(関)

▲ ▲ ▲ 継続希望の方へ ▲ ▲ ▲

- ▶ 卒業や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶ 在籍していた教室までご連絡下さい。

創学舎の本 -Sogakusya Books-

愛の壁 - お父さんお母さんあなたの愛の垣根、何ですか
著者：小林 憲右 2006年5月1日発行(1,500円税込)

新星堂他全国書店にて好評発売中!

受験生は読め! (合格のヒケツがここにある)

勉強法・精神面のケアなどについて、創学舎講師陣が綴りました。非売品(希望者に無料で差し上げます。)

残り僅か